

中 学 校	テーマ	遺された者の痛みや悲しみ		
	ねらい	遺された者の痛みや悲しみ、避けられるかもしれない死を想像することで、自他の命のかけがえのなさと人とのつながりを実感する。		
	指導のポイント	事前	学習・体験	事後
	<p><b>【感動の体験】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人を亡くした家族の悲しみの深さを実感させる。</li> <li>死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させる。</li> </ul> <p><b>【感性を育む】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「被害者遺族の手記」などを読み、当事者の心の痛みや悲しみを感じさせる。</li> <li>死別の悲嘆の深さに思いをめぐらせる。</li> </ul> <p><b>【想像力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者の痛みや悲しみを想像することで、自他の命のかけがえのなさと人とのつながりを実感させる。</li> <li>快楽やスリル及び現実逃避の手段として暴走行為などで命を粗末にする愚かさ気づかせる。</li> <li>自分の命を自分だけのものととらえることの誤りに気づかせる。</li> </ul>	<p><b>【先生の準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中だけでなくすべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。</li> <li>教員自身が被害者遺族の思いにふれる体験を持つ。</li> <li>インターネット上の有害情報や仮想現実の死や暴力について知っておく。</li> <li>現在悲嘆にある子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前事後の個別指導を充実させる。</li> <li>家庭・地域との連携の上、学習や体験内容に配慮する。</li> <li>子ども一人ひとりを把握し、学級内の人間関係を掌握しておく。</li> </ul> <p><b>【教育課程上の位置づけ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健体育、技術・家庭、道徳、特別活動、総合的な学習の時間</li> </ul> <p><b>【子どもたちの準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被害者遺族関連記事やいじめによる自殺などの報道について調べる。</li> <li>ノーゲームデーの体験をする。</li> <li>自尊感情を高める体験をする。</li> </ul> <p><b>【家庭・地域との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メディアの中の暴力や死の表現について家庭での対話を依頼する。</li> <li>あらかじめ授業内容を伝え、家庭でも話題にするなど積極的に関わってもらうよう依頼する。</li> <li>配慮を要する子どもには家庭との連携を密にする。</li> </ul>	<p>身近な人の命を奪われることの悲しみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遺族の手記を読んだり、身近な人の死に関わる体験談を聞く。</li> <li>犯罪被害者・遺族やいじめによる自殺などの新聞記事を読む。</li> <li>ロールプレイングをとおして、いじめなどの被害者のつらさや悲しみを知る。</li> <li>『命の尊さを考える-生と死を学ぶ読み物集-』（鹿児島県教委）</li> </ul> <p>自分にとっての死</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口動態統計（厚生労働省）の年齢階級別死因のグラフを利用し、中高生の死因の第一位（不慮の事故）を考えさせる。</li> <li>交通事故における死亡事故を想定したロールプレイングを行う。 「自分が死んでしまったら親は？」 「自分が死んでしまったら友だちは？」</li> </ul> <p>ゲストティーチャーの話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>死と向き合う人々や犯罪被害者・遺族の方を招いて死別の悲嘆の深さについて話を聞く。（「被害者遺族の手記」を読む。）</li> <li>救急医療従事者や救急隊員、「いのちの電話」相談員など死に直面した状況の中で命を支える人の話を聞く。</li> <li>「薬物」、「いじめ」、「リストカット」、「援助交際」、「有害情報」等のテーマで話を聞く。</li> </ul>	<p><b>【子どもたちの予想される心の動き】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被害者の立場に立って考えることは大切なんだ。</li> <li>自分が死んだら、家族や友だちはどんなに悲しむだろう。</li> <li>悲しみを乗り越えて生きている人々はすごいなあ。</li> <li>自分や命を大切にしよう。</li> </ul> <p><b>【振り返りカードへの記入】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習・体験の後に、子どもたちに自分の心の動きを振り返らせ、振り返りカードに記入させる。</li> </ul> <p><b>【日常生活での実践・家庭との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材及び子どもたちの感想などをまとめて家庭に配布するなど学習や体験の成果を知らせる。</li> <li>青少年が関わる他者の痛みや悲しみに関する事象について、家庭での対話を依頼する。</li> <li>交通事故や不慮の事故等に対する認識を深め、生命尊重の視点を常に持って日常生活を点検する。</li> </ul> <p><b>【先生の振り返り】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>死別の悲しみに思いをめぐらすことによって自他の命を大切にしようとする気持ちを養えたか。</li> <li>死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させることができたか。</li> <li>子どもたち一人ひとりの心の動きを十分にとらえることができたか。</li> <li>虚無感や死に対する過度の恐怖心を抱かせることはなかったか。</li> </ul>